
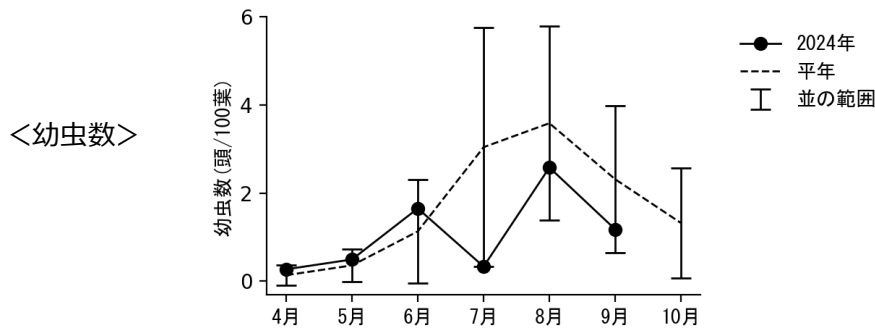
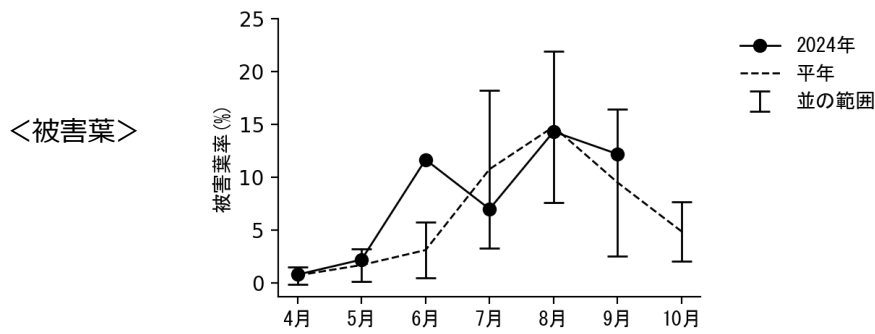


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	↓	
		10 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率87.5% (平年 : 86.7%)

防除のポイント

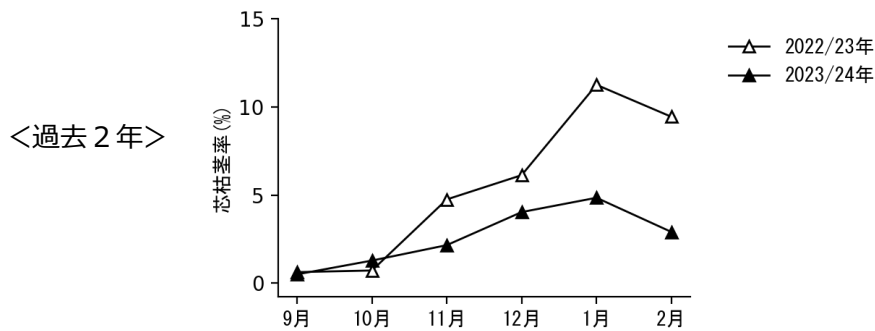
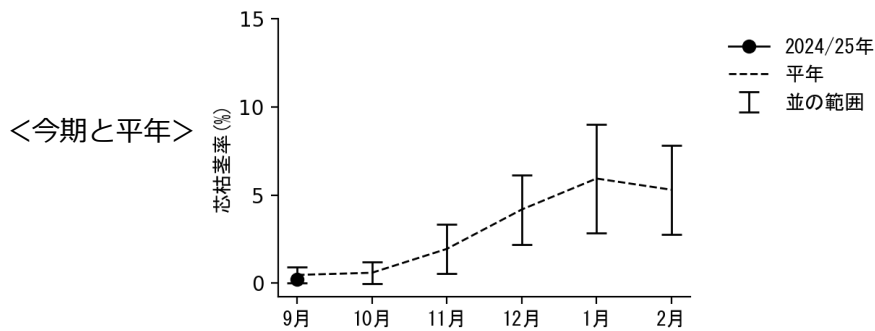
・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。



作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	9 月からの増減傾向	→		
		10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



・発生ほ場率13.3% (平年 : 35.7%)

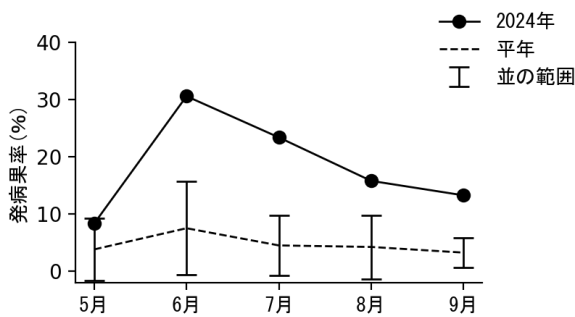
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

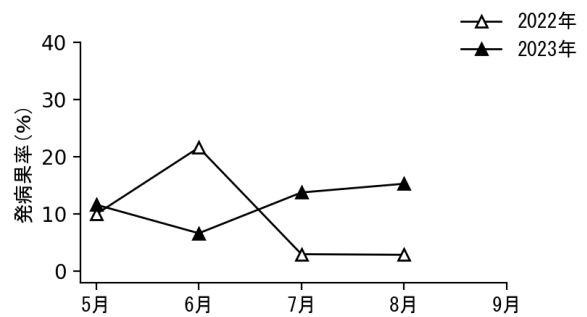
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島	
病害虫名	そうか病				
調査結果	9月の発生量（平年比）	多			
予報	9月からの増減傾向	—			
		10月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠					

調査結果

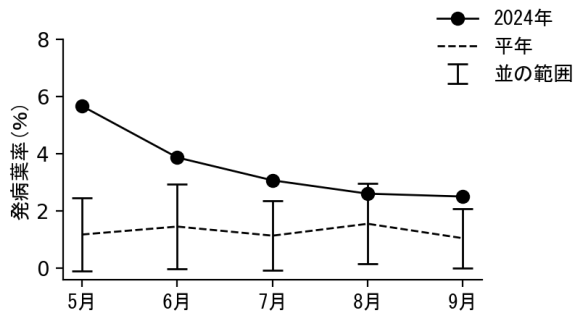
発病果率の推移（今期と平年）



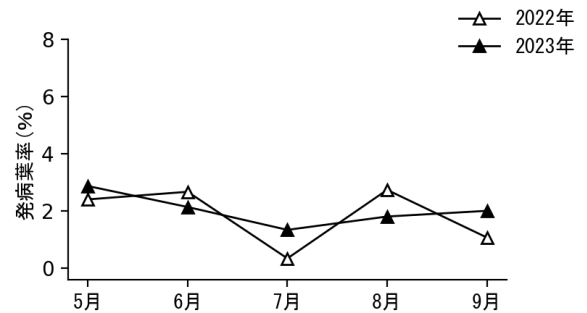
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）




- ・ 果実の発病度2.6（平年1.1）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：71.4%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→

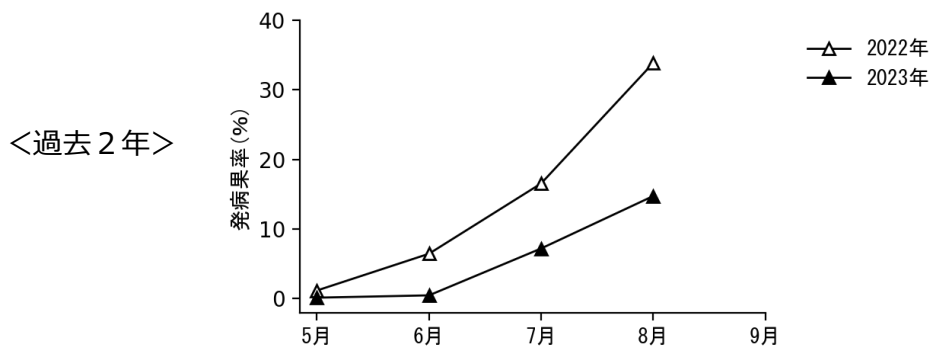
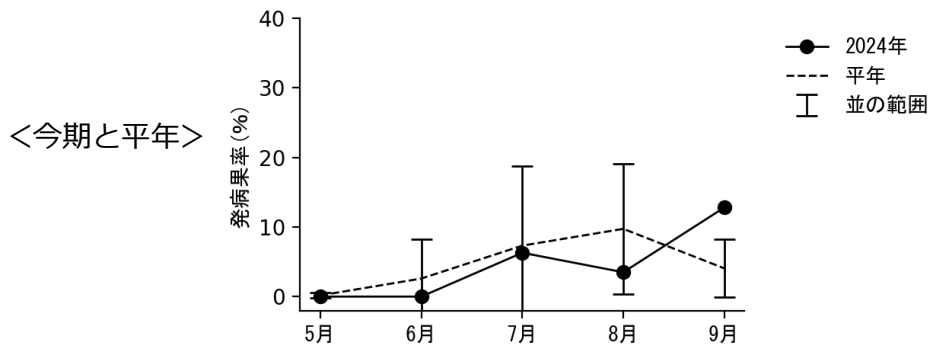


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	黒点病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量（平年比）	—	

予報の根拠

調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度2.6（平年1.4）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：48.6%）

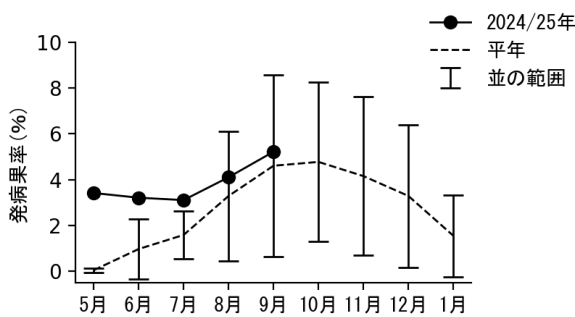
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

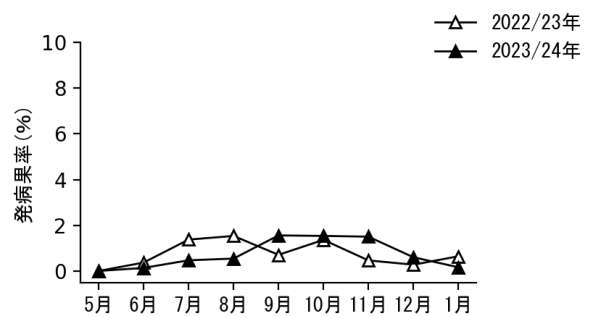
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	→	
		10 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

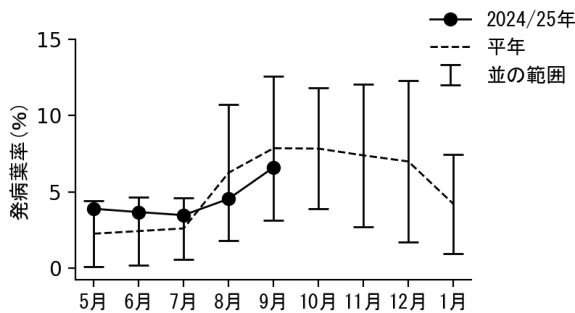
発病果率の推移 (今期と平年)



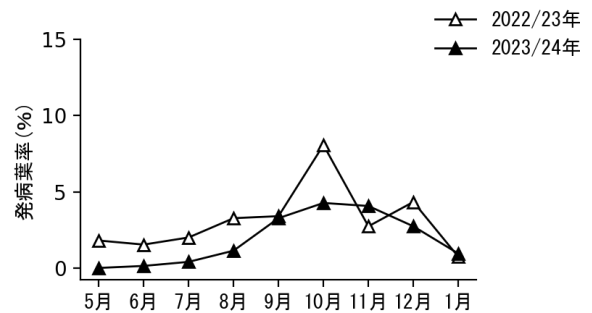
発病果率の推移 (過去 2 年)



発病葉率の推移 (今期と平年)



発病葉率の推移 (過去 2 年)




- ・ 果実の発病度1.1 (平年0.8)
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 79.6%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口 (風傷) は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

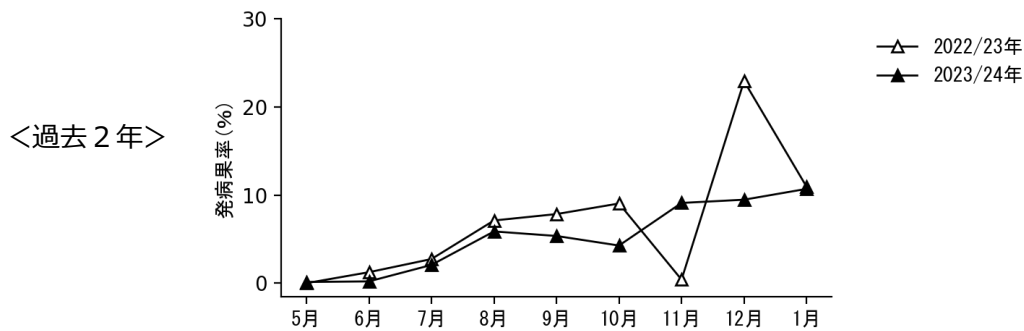
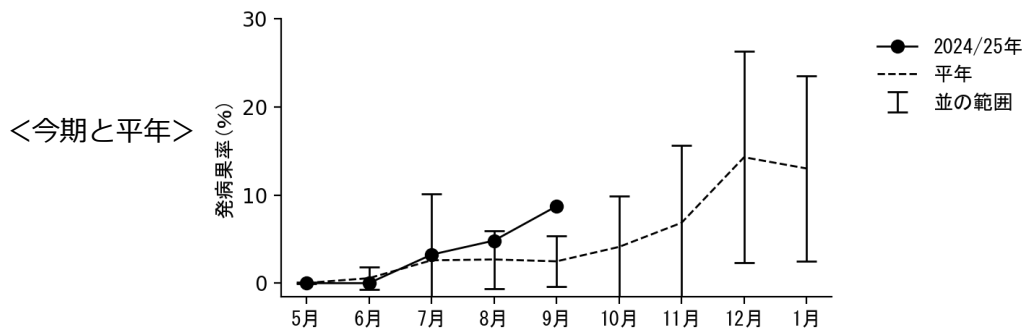
被害葉→



作物	かんきつ (タンカン)		地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
		10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度1.7 (平年0.6)
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 53.1%)

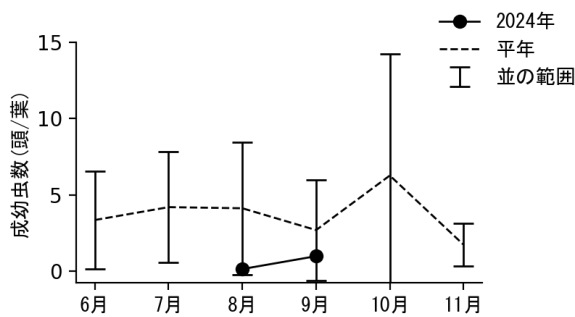
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

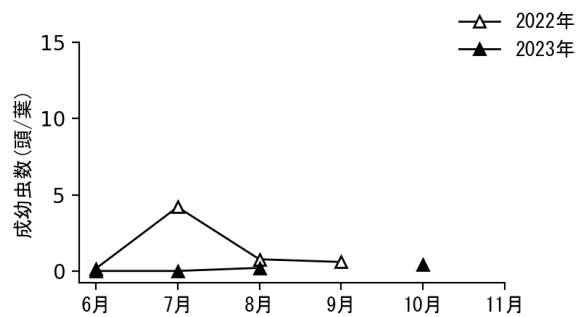
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

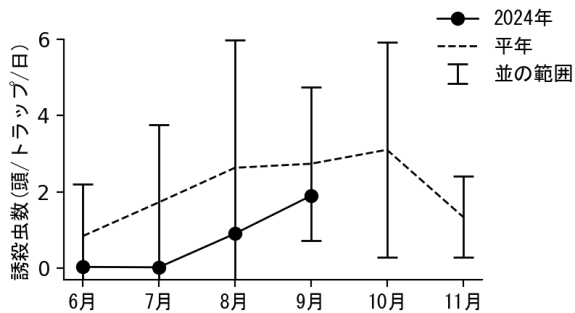
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



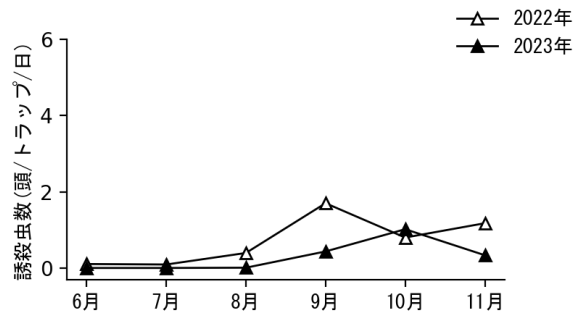
葉当たり成幼虫数の推移 (過去2年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去2年)




・発生施設率100% (平年 : 84.5%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

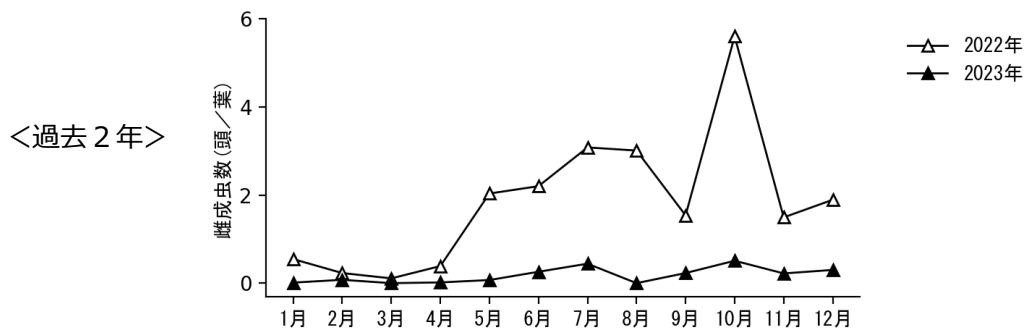
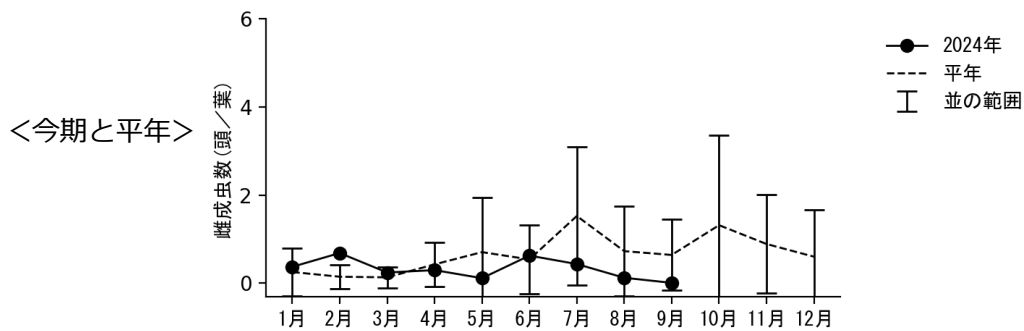


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：60.5%)

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



マンゴーツメハダニ

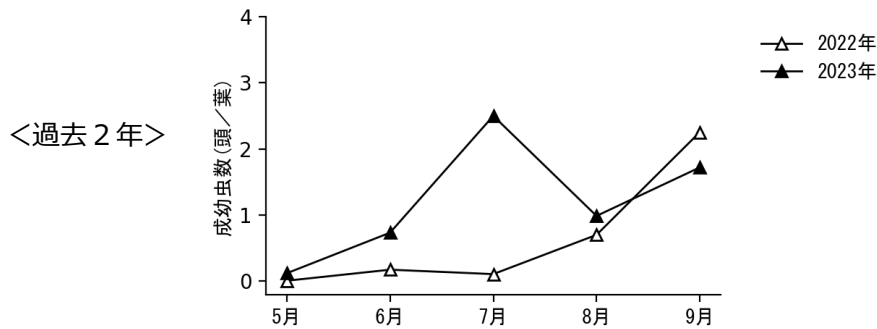
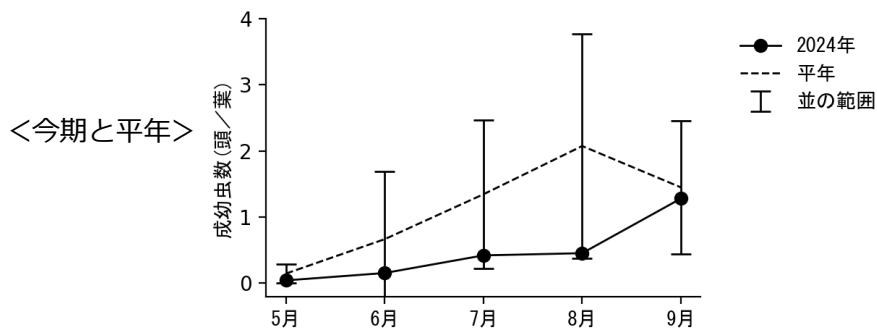


作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	—	
	10月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			



調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率100%（平年：79.5%）

防除のポイント

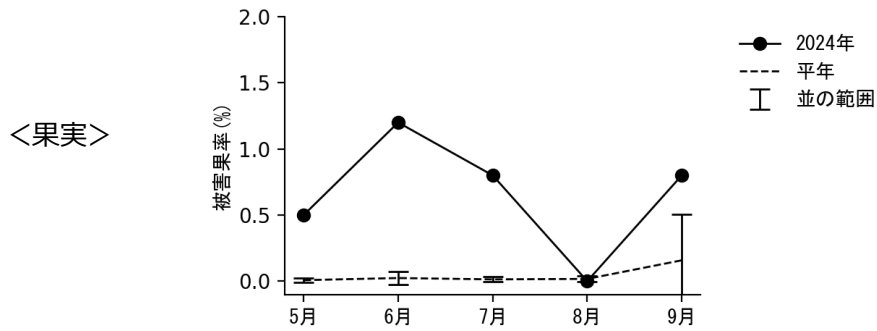
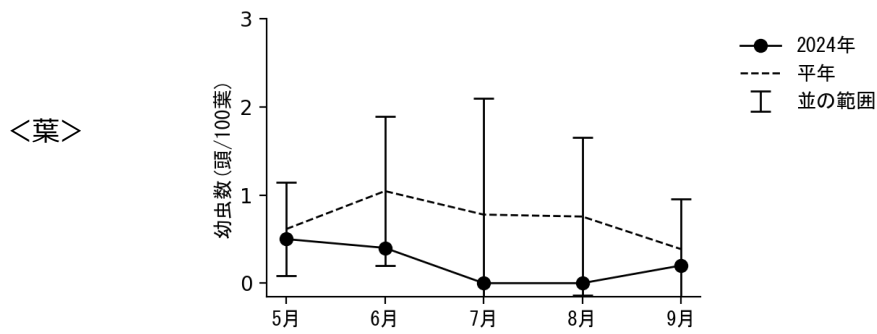
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)




・発生ほ場率20.0% (平年: 18.2%)

防除のポイント

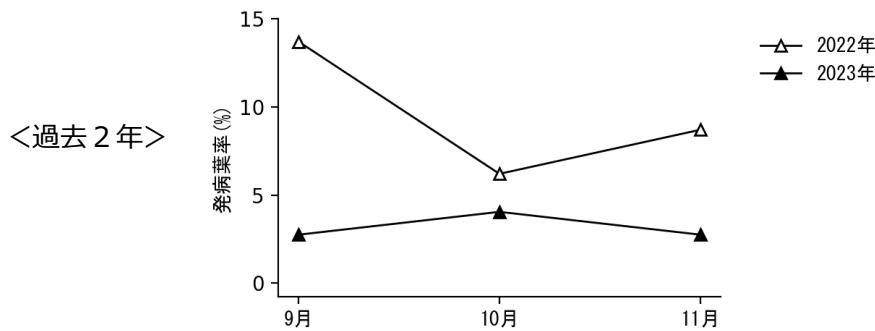
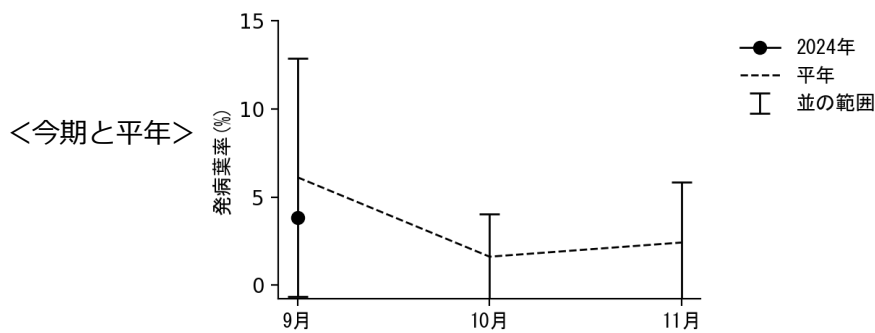
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並		
予 報	9 月からの増減傾向	↘		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率71.4%（平年：54.3%）

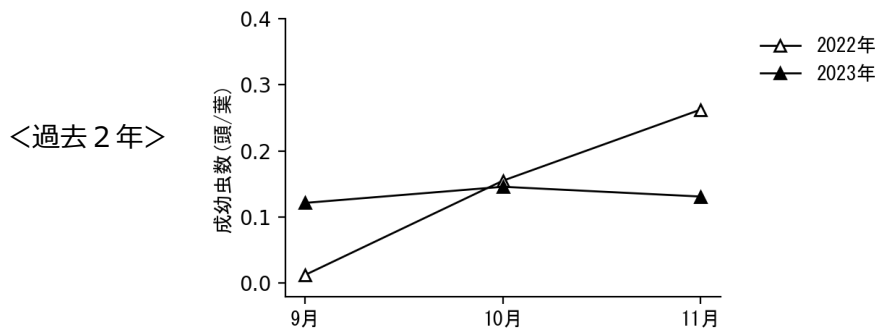
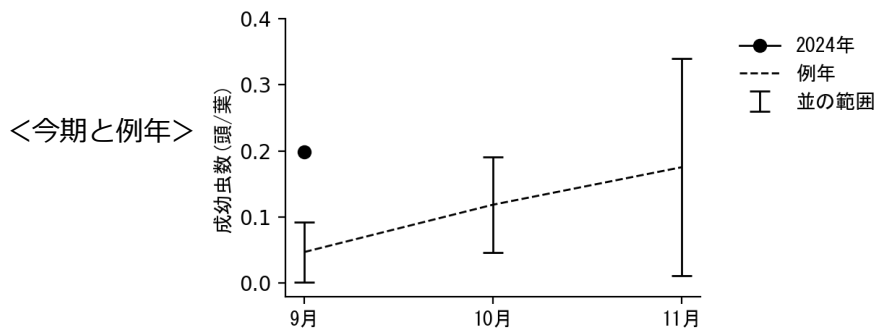
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク (年未出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	9 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ ※一部圃場で多発
- ・発生ほ場率100% (例年：73.3%)

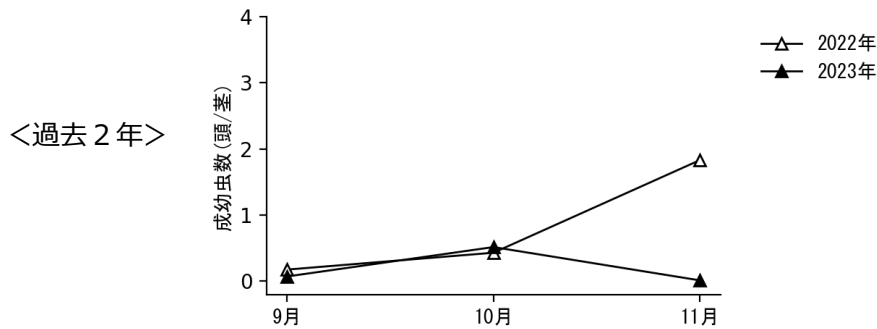
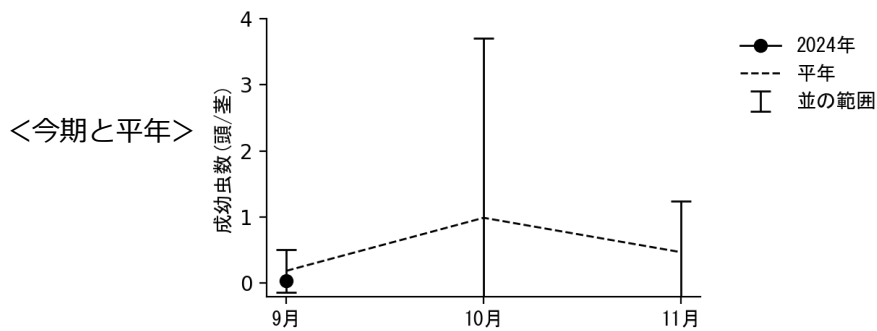
防除のポイント

- ・苗床での防除を徹底し、本畑への持ち込みを防止する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク (年未出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移




- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率42.9% (平年：29.3%)

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

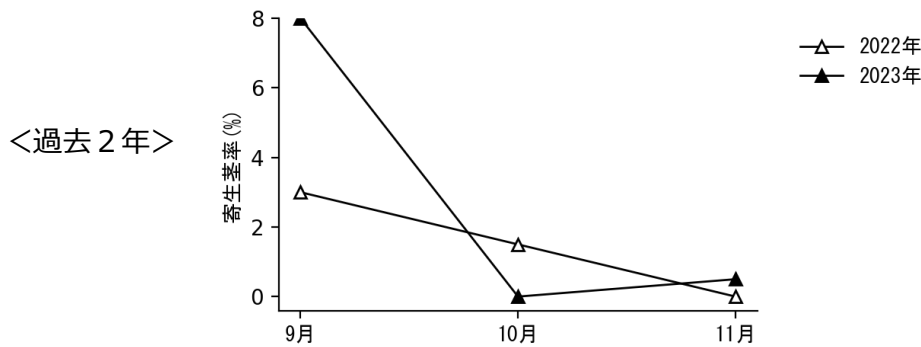
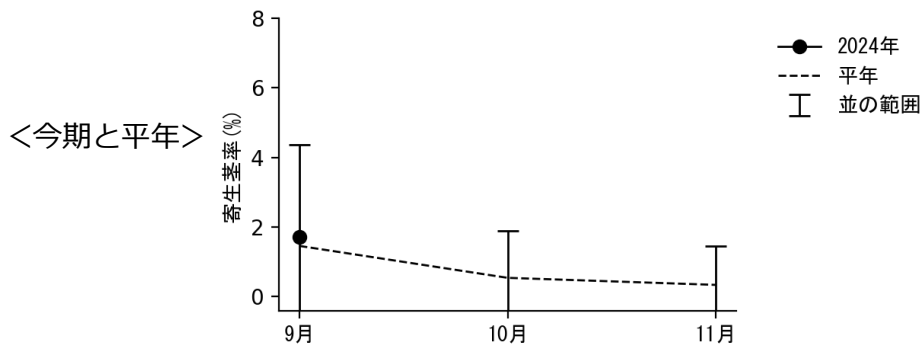


寄生の様子

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果

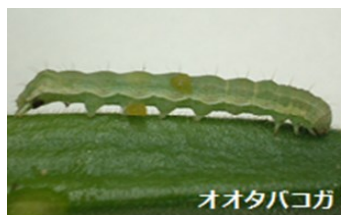
寄生茎率の推移




- ・発生種：ハスモンヨトウ
- ・発生ほ場率28.6%（平年：11.1%）

防除のポイント

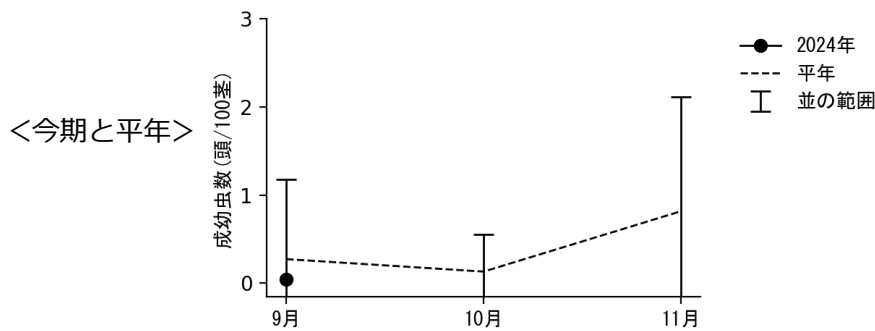
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



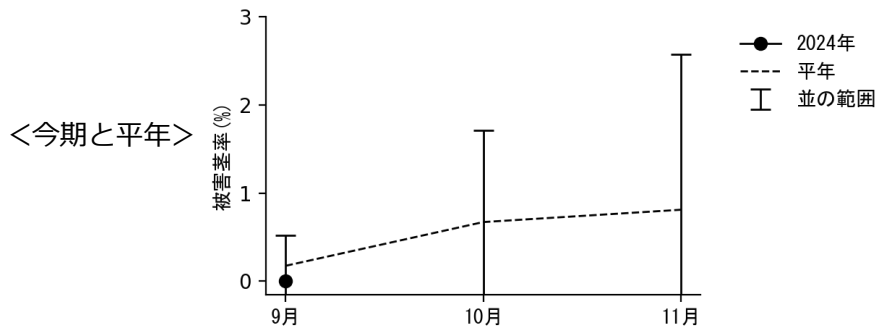
作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ カスミカメ類		 <p>ウスモンミドリカスミカメ</p>
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果

成幼虫数の推移




被害茎率の推移



- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率57.1%（平年：4.3%）

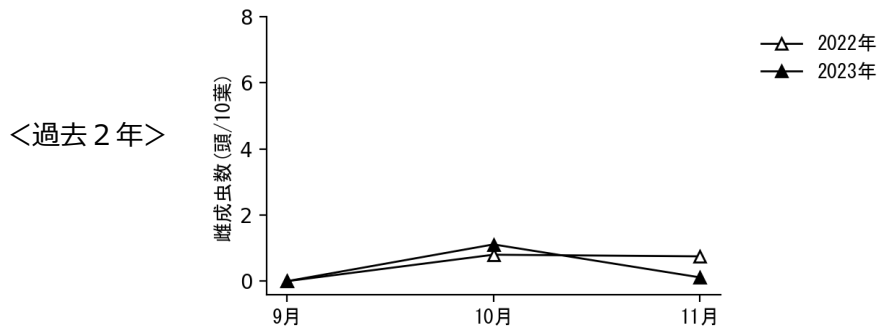
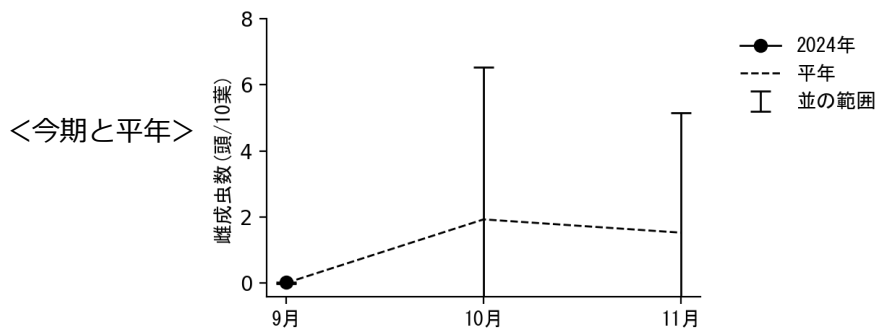
防除のポイント

- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から 5～7 日おきに実施する。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島	
病害虫名	⑥ ハダニ類		 <p>ナミハダニ</p>		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並			
予報	9 月からの増減傾向	↗			
	10 月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）			

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ（黄緑型）
- ・発生ほ場率42.9%（平年：1.3%）

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。